

健診でのヘリコバクターピロリ抗体検査導入初期成績

田中 かおり^{1) 2)} 白子 順子^{1) 3)} 笠井 里佳子^{1) 2)} 中安 規絵^{1) 2)} 前田 美保子¹⁾
 谷口 美幸¹⁾ 木下 泰子¹⁾ 上野 はな江¹⁾ 住奥 幸世¹⁾ 今井 奨³⁾ 高田 淳³⁾

1) 高山赤十字病院 健診センター

2) 高山赤十字病院 看護部

3) 高山赤十字病院 消化器内科

抄 録：ヘリコバクターピロリ（以下HP）感染胃炎は胃癌と関連があると言われ、除菌治療が推奨されるなど健診受診者の関心も高くなっている。このため当健診センターでは2017年4月から血清抗H.pylori IgG抗体検査(以下ピロリ抗体検査)をオプション導入した。より多くの受診者に検査を受けてもらえるよう、事前案内と健診当日に様々な啓発を積極的に行った。2017年4月から2018年3月までの全健診者6,833名のうち532名（7.8%）が抗体検査を受け、抗体陽性者は162名（30.5%）であった。抗体陽性者のうち131名が医療機関を受診し、124名の除菌治療につなげることができた。健診受診者の病歴・家族病歴の確認、過去の上部消化管X線・内視鏡検査の結果確認を行い、今回得られた結果を含めて当受診者の特性に応じたHP感染胃炎の情報提供を実施していきたい。

索引用語：胃がん検診、ピロリ抗体検査、除菌治療

An analysis of result from the first year of Helicobacter pylori antibody testing at health check-up examinations

Kaori TANAKA^{1) 2)} Junko SHIROKO^{1) 3)} Rikako KASAI^{1) 2)}
 Norie NAKAYASU^{1) 2)} Mihoko MAEDA¹⁾ Miyuki TANIGUCHI¹⁾ Yasuko KISHITA¹⁾
 Hanae UENO¹⁾ Sachiyo SUMIOKU¹⁾ Susumu IMAI³⁾ Jun TAKADA³⁾

1) Japanese Red Cross Takayama Hospital, Health check-up center

2) Japanese Red Cross Takayama Hospital, Department of Nursing

3) Japanese Red Cross Takayama Hospital, Department of Gastroenterology

Summary

Helicobacter pylori infection is a common worldwide infection that is an important cause of peptic ulcers and gastric cancer. Our health check-up center introduced a serum anti-Helicobacter pylori IgG antibody test (HP antibody test) as an optional examination. We employed a range of information dissemination techniques both during prior guidance and on the day of the medical examination in order to maximize the uptake of the HP antibody test. From April 2017 to March 2018, of 6,833 health check-up examinees, 532 (7.8 %) received HP antibody tests, resulting in 162 (30.5%) testing positive. Of these, 131 people visited hospital, where 124 successfully underwent Helicobacter pylori eradication treatment. Going forward, we intend to provide more information regarding Helicobacter pylori infection to health check-up examinees, incorporating the results obtained previously.

I はじめに

ヘリコバクターピロリ（以下HP）感染胃炎は胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となり、胃癌との関連が言われている。2000年に日本ヘリコバクター学会よりHP感染の診断と治療ガイドライン発表にてHP菌の除菌が推奨され、2009年ガイドライン改訂版¹⁾にてHP感染の診断指針が明記されている。また、HP感染について当健診センター受診者の関心も高まっていたことから、当健診センターでは2017年4月から血清抗H.pylori IgG抗体検査（以下ピロリ抗体検査）をオプション導入した。2017年度の当健診センター受診者のピロリ抗体検査の初期成績と今後の課題について検討する。

II 対象

2017年4月1日～2018年3月31日の1年間に当健診センターを受診した6,833名（男性3,612名、女性3,221名、平均年齢47.9歳）を対象とした。

III 方法

受診者に対してピロリ抗体検査の勧奨を行った。事前勧奨として当病院ホームページにピロリ抗体検査の導入案内を掲載し、健診受診企業にHP菌に関するパンフレットとピロリ抗体検査導入案内の送付を行った。また当健診センター内にHP菌に関するパンフレット・ポスターを掲示した。上部消化管内視鏡検査希望者へ検査前の抗凝固剤の内服の有無などを電話確認する際に、ピロリ抗体検査・除菌治療歴、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の既往を尋ねるとともに、ピロリ抗体検査の勧奨を行った。さらに健診当日の問診・診察時にピロリ抗体検査の勧奨を行い、上部消化管内視鏡検査で萎縮性胃炎・鳥肌胃炎等HP感染が疑われる場合、検査施行医より抗体検査を勧奨した。

ピロリ抗体検査はEIA法（栄研化学株式会社製）、判定基準値は抗体価10.0U/ml以上を陽性とした。

IV 結果

1. 当健診センターの胃がん検診の動向

過去5年間の胃がん検診方法を示す（図1）。2013年度はX線検査4,255名、内視鏡検査503名であったが、以後X線検査はわずかに減少傾向、内視鏡検査は毎年約80件ずつ増加し、2017年度にはX線検査4,093名、内視鏡検査は852名となった。

2017年度の胃がん発見率はX線検査0.02%、内視鏡検査では0.23%であった（表1）。

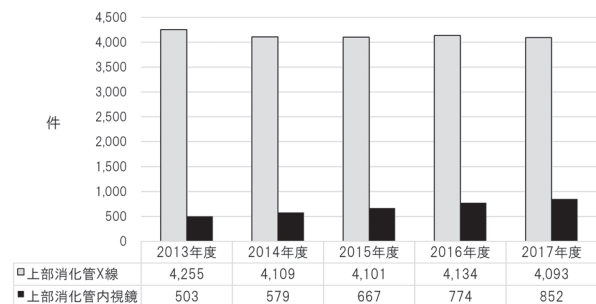


図1：胃がん検診件数の推移（検査別）

表1：2017年度胃がん検診結果

検査方法	X線	内視鏡
受診者数(名)	4093	852
要精検者(名)	177	24
要精検率(%)	4.3	2.8
精検受診者(名)	123	23
精検受診率(%)	69.5	95.8
がん発見者数(名)	1 (早期胃癌)	2 (早期胃癌)
がん発見率(%)	0.02	0.23

2. ピロリ抗体検査の成績（図2）

2017年度当健診センター受診者6,833名中ピロリ抗体検査者は532名（7.8%）で、男性250名、女性282名、平均年齢は55.6歳であった。うち抗体陽性者は162名（男性70名、女性92名、平均年齢55.6歳）で抗体陽性率は30.5%であった。

年代別抗体測定者は50代（37%）、40代（28%）、60代（22%）の順に高かった（図3）。年代別抗体検査者と陽性者は、20代が1名中0名（陽性率0%）、30代が46名中9名（19.6%）、40代が151名中30名（19.9%）、50代が195名中64名（32.8%）、60代が118名中53名（44.9%）、70代が20名中5名（25%）、80代が1名中1名（100%）であった。50～70代を合わせると抗体陽性率は34.2%と高かった（図4）。

抗体陽性者162名中131名が医療機関を受診し、精検受診率は80.9%であった。また未受診者・不

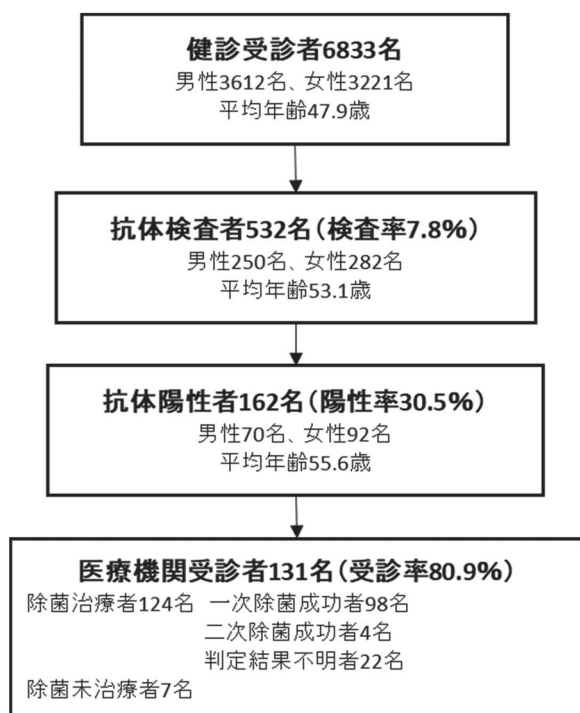


図2：ピロリ抗体測定および除菌結果

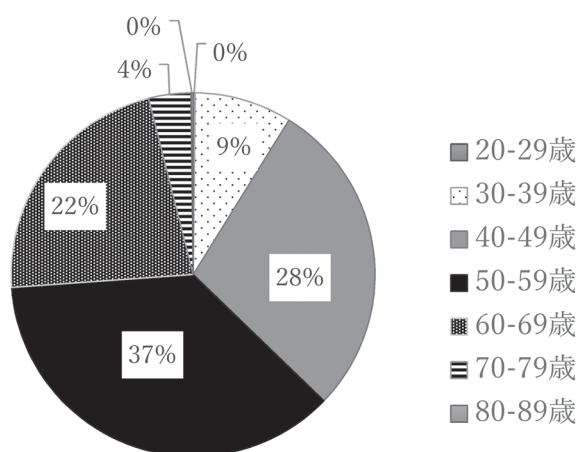


図3：ピロリ抗体検査年代別構成比 (n = 532)

明者は31名（19.1%）であった。精密検査の受診医療機関は当院89名、他院42名であった。精密検査を受診した131名中、除菌治療者は124名（76.5%）、除菌未治療者は7名（4.3%）であった。除菌未治療の理由としては、精検時の上部消化管内視鏡検査にて胃粘膜の状態から治療不要と判断された、ウレアーゼ試験にて陰性のため治療不要と判断された、その他疾患の治療を優先するため治療不要と判断されたなどであった。

除菌治療者のうち、一次除菌成功者98名（一次除菌成功率79%）、二次除菌成功者4名（二次除

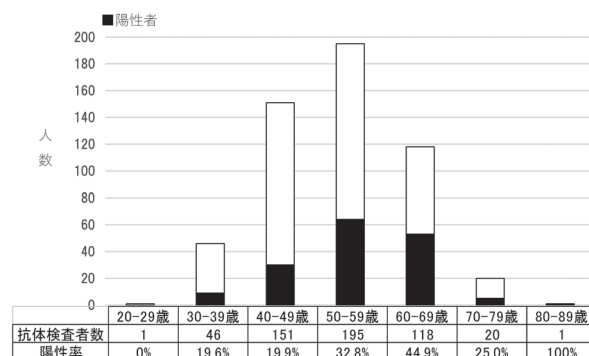


図4. 年代別ピロリ抗体検査者数・陽性率

菌成功率100%）であり、除菌後の結果不明者は22名（16.7%）認めた。除菌後の結果不明の理由として、除菌判定を希望しない者、除菌判定に来院しなかった者、精検結果の返信用紙に判定結果が記載されておらず追跡困難であることが挙げられた。

V 考察

2015年4月国立がん研究センターによる胃がん検診ガイドラインにて、上部消化管内視鏡検査は胃癌死亡率を減らす効果がある²⁾ことが報告された。厚生労働省より従来胃がん検診は問診と上部消化管X線検査が推奨されていたが、2016年度から胃がん検診は問診と上部消化管X線検査または上部消化管内視鏡検査を推奨する³⁾と発表された。以上のことが内視鏡検査が増加している背景として考えられる。当院の過去5年の比較でも2013年度は内視鏡検査503件であったが、内視鏡検査は852件と年々増加傾向であった。

2017年度はピロリ抗体検査導入の年度のため、健診受診者には健診前から当日にかけて導入案内及び検査勧奨を積極的に行った。その結果532名（7.8%）がピロリ抗体検査を受けその陽性率は30.5%であった。Asakaら⁴⁾は日本人のHP感染率は、2010年では50歳代以降で感染率40%を超え中高年の年齢層で上昇すると報告している。今回の我々の結果でも年代別抗体陽性率は50代以降に上昇しており同様の結果であった。また、30代の若年層でも陽性率は19.6%認めた。現在想定されている感染ルートはヒト-ヒトの経口感染であり、母子感染が最も多い⁵⁾と言われている。そのため、HP感染者を減らすためにはピロリ抗体陽性

率の高い世代だけでなく、子育てをする若年層から高齢層まで幅広い年代にピロリ抗体検査を推奨する意義があると考えられる。

抗体陽性者162名中131名(80.9%)が精密検査を受けており、除菌治療について関心の高さがうかがえる。しかし、その中でも未受診者を認めており、未受診を減らすには、ピロリ抗体検査推奨時に除菌治療の重要性和胃癌との関連について十分に説明をする必要がある。さらに、次回健診時にも除菌治療の重要性について説明し受診勧奨をすることが課題と考える。

今回ピロリ抗体検査をオプション導入することで、抗体陽性者で精密検査を受けた131名中124名(76.5%)を除菌治療へ結びつけることができた。下山ら⁵⁾は除菌に成功してもHP感染者の胃癌リスクは非感染者よりも高く、除菌治療の際にはこの点を十分に説明した上で、治療後も胃癌のスクリーニング検査を受けるべきであるとしている。そのため、除菌成功者に対しては胃がん検診受診の重要性の説明と、定期的な上部消化管検査を推奨することが必要である。また、精査を受けたが除菌治療不要と診断された者へは、HP感染胃炎は胃癌リスクが高まることを情報提供していくことが課題である。

今後は更なるHP感染者の拾い上げを目的に、前年度ピロリ抗体検査を受けていない者や、上部消化管内視鏡検査でHP感染が疑われる者、胃・十二指腸潰瘍既往者、胃部症状を認める者など、より多くのHP感染者の拾い上げをすることが求められる。

健診受診者の病歴と家族病歴の確認、過去の上部消化管X線・内視鏡検査の結果を確認し、今回得られた結果を含めて当健診受診者の特性に応じたHP感染胃炎の情報提供を実施したいと考える。今後も胃癌の一次予防・早期発見に寄与できるようよりきめ細かな健診を目指していきたい。

VI 結語

2017年4月からピロリ抗体検査を導入し、健診受診者へさまざまな啓発を積極的に行った。全健診者6,833名のうち532名(7.8%)が抗体検査を受け、124名の除菌治療につなげることができた。

今後も胃癌の一次予防と早期発見に寄与できるようよりきめ細かな健診を目指したい。

VII 引用文献

- 1) 日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会：H.pylori感染の診断と治療ガイドライン2009年改訂版、日本ヘリコバクター学会誌10 (Supplement)：1-25、2009
- 2) 国立がん研究センター がん予防・検診研究センター：有用性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版、<http://canscreen.ncc.go.jp/pdf/iganguide1501.pdf> [accessed 2018年12月27日]
- 3) 厚生労働省 健康局、がん・疾病対策 胃がん・乳がん検診に関する指針の改正について <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000114067.pdf> [accessed 2018年12月27日]
- 4) Asaka M, Kimura T *et.al.* Relationship of Helicobacter pylori to serum pepsinogens in an asymptomatic Japanese population. *Gastroenterology* 102: 760-766, 1992
- 5) 下山克、菅野健太郎：除菌治療の対象、日本ヘリコバクター学会supplement：13-15、2013